



市内の企業の方へのインタビュー



ワークショップでのチーム間の意見交換

若者の視点でまちづくりに参加！ —仙台まちづくり若者ラボ

11月18日には、3回目のワークショップを開催。この日は、これまでチームごとに行ってきた取材やインタビューなどを基に、進捗状況の報告や意見交換を行いました。「楽しむ」チームは、若者の視点から見た仙台の観光地の魅力を探るために秋保・作並地区や水の森公園などを巡り、それぞれの特徴や課題について取材したことを、「学ぶ」チームは、さまざまな学びの場について調べるため、

市では、「学都・仙台」の強みを生かし、若者の感性やアイデアを積極的に取り入れる環境づくりを進めています。若者の柔軟な発想を生かしてまちの活力につなげるため、「仙台まちづくり若者ラボ」を9月から開始しました。この事業は、若者が「まちの特派員」となり、ワークショップや取材などを行いながら、若い世代ならではの視点でまちづくりについて考える実践的なプログラム。10代から30代の学生や社会人29人が6つのチームに分かれ、仙台で「楽しむ」「学ぶ」などの切り口で「自分ごと」として関わることのできるテーマを設定し、取材活動を行っています。10月までに2回のワークショップとチームごとの活動を実施し、テーマへの考察を深めてきました。

この特集に関するお問い合わせは
市民協働推進課 ☎214・80002、
FAX 211・5986

「仙台まちづくり若者ラボ」最終報告会

- 日時＝1月14日(木)19:00～21:15 ●会場＝市民活動サポートセンター
- 内容＝各チームの活動をまとめた、まちづくりについてのプレゼンテーション ●定員＝25人【抽選】 ●後日動画配信を行います

☑市ホームページの電子申請または電話で1月12日までに仙台まちづくり若者ラボ事務局（㈱JTB仙台支店内）☎263-6726

1月には最終報告会を行い、これまでの活動を通して得られた発想やアイデアを発表するとともに、事業終了後も、継続的にまちづくりについて考え、自らの行動につなげることを目指します。

民家のガレージに本を並べて近所の子どもたちに貸し出したり、フリースペースを提供したりしている方にインタビューを行ったことなどを報告しました。参加者たちは他のチームの活動内容に興味深く耳を傾け、また自分たちが発表した内容に対するアドバイスを受けて、今後の活動の方向性を確認していました。

誰でも気軽に参加できる コミュニティーを



おみど 尾門 あいりさん

北海道出身で、ずっと北海道で暮らしてきましたが、転勤を機に3年前に仙台に引っ越してきました。インタビューなどを通して、仙台は暮らしやすいということや、人の良さを感じています。今回の活動に参加してみて、さまざまな人の話を聞き、新しい視点を得たり刺激を受けたりすることが多くありました。このような活動に興味があってもなかなか参加する方法が分からないという同世代の人もいるので、気軽に情報交換ができる、ハードルの低いコミュニティーをつくれたらいいと思います。

この活動を通して感じた仙台の良さを 伝えていきたい



りゅうが 熊谷 流加さん

仙台のことが好きで、仙台のまちに今どんな課題があるのか、また出身地である気仙沼市と、現在大学生を送っている仙台市をつなぐ何かができればと思い参加しました。仙台の中小企業の方へのインタビューでは、東日本大震災を機に、より地域に寄り添う意識を持つようになったという話を聞き、地域に貢献したいという思いを新たにしました。来年から社会人になるので、今回の経験を生かして、自分が育ったまちの良さを大事にし、その良さを伝えていけるようになりたいと思います。